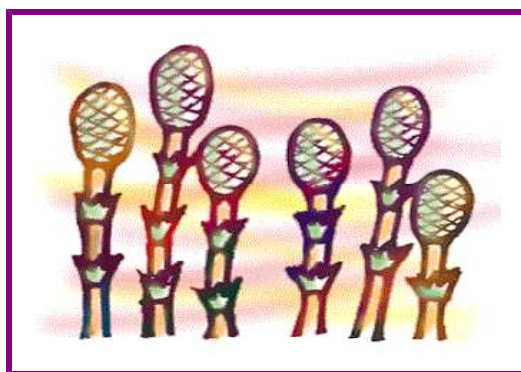


# めぐみイエス・キリスト教会

2019年3月24日(日) 第四主日礼拝  
週報「通算第448号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年3月24日(第四主日礼拝)

第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌171「今日まで守られ」 p. 246

【交読文】 No.30 詩篇第96篇 p. 903

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章1節～3節(新約p. 198下段)

【祈 禱】

【説 教】 《ゲッセマネの園》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書18章1節～3節)

18:1 イエスはこれらのことを話し終えられると、弟子たちと共に、ケデロンの川筋の向こう側に出て行かれた。そこに園があつて、イエスは弟子たちと一緒に、そこにはいられた。

18:2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたからである。

18:3 そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。

●ポイント1. 共観福音書におけるゲッセマネの園の記事とは？

※マタイの福音書26章36節～47節「ペテロとヤコブとヨハネ」 (新約p.51)

●ポイント2. 主イエス様は、いつベタニヤに来られたのか？

※ヨハネの福音書12章1節～3節「ベタニヤの三姉弟」 (新約p.186上段)

12:1 イエスは過越の祭りの六日前にベタニヤに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。

12:2 人々はイエスの為に、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いている人々の中に混じっていた。

12:3 マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。

12:4 ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ・ユダが言った。

12:5 「なぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」

12:6 しかしこう言ったのは、彼が貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたからである。

12:7 イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤは私の葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。」

●ポイント3. イスカリオテのユダから学ぶこととは？

※マタイの福音書18章21節～22節「ペテロの質問」 (新約p.33下段)

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとは私は言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

※イザヤ書55章6節～7節「イザヤの言葉から」 (旧約p.1117上段)

55:6 主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。

55:7 悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。

## ◎先週のメッセージの概要【父よ、お願いします】

《主イエス様と十一弟子は、まだヨハネ・マルコの二階大広間にいます。主イエス様は、祈っておられます。その祈りを、主の右にいたヨハネだけが聞いていました。ヨハネ以外の弟子たちは「誰が一番偉いのか」議論していたのです。後にヨハネは、この時から約六十年後に、福音書を執筆します。

「父よ。お願いします。」

この言葉に、どれほどの強い願いと祈りが込められているのでしょうか。主は、ご自身が残して行かなければならない十一弟子の為に、そしてやがて彼らを通して信仰に導かれるすべての人々の為に祈り願っておられます。「あなたが私に下さったものを私のいる所に私と一緒におらせて下さい。」これは預言です。主の十字架と復活と昇天を通して、成就することになります。

パウロは、このように説明しています。

『あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また私たち信じる者に働く神の優れた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。哀れみ豊かな神は、私たちを愛して下さったその大きな愛のゆえに、キリスト・イエスにおいて、共によみがえらせ、共に天の所にすわらせて下さいました。』

これが私たち、主に救われた者の「アイデンティティー」なのです。私たちの体は、確かにこの世に属していますが、私たちの霊は、主イエス様と共に、父なる神様の右の座に座しているのです。何と光栄なことなのでしょう。 「私に下さった私の栄光を、彼らが見るようになるためです。」とは、主が行なわれた様々な不思議と奇跡とを弟子たちが行なうようになることなのです。 「まことに、あなたがたに告げます。私を信じる者は、私の行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。」と主は約束されました。 「私は彼らにあなたの御名を知らせました。またこれからも知らせます。」とは、「父なる神様」と言う呼び名と、ご自身の「イエス」と言う名前のことです。 「名」は、その人の全存在を表わす固有名詞となります。その意味は、「主は救い」なのです。私たちの救われるべき名は、この御名だけなのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は3月31日(日)です。また次回「聖書の学びと祈り会」は4月3日(水)午後6時15分からです。3月27日(水)は、都合によりお休みします。